

平成28年8月10日

日本ケムトレックス株式会社
開発部 石切山

【性能評価報告書】



■ 題目: 消臭剤「エアクレンスFC-H88」の経時性能安定性

1. 目的

「エアクレンスFC-H88」の経時による性能安定性を評価する為に、下記の製品保管条件と試験方法に基づき評価を行う。尚、以下の文書において「エアクレンスFC-H88」は、H88と表現する。

2. 保管室及び試験室の室内温度条件: 保管室は常温で5~30℃、試験室は20~25℃の範囲。

3. 試験用サンプルの保管条件

サンプルA: 消臭剤H88の入った200ccのガラス容器を密封した状態で4個保管し、3ヶ月経過毎に消臭性能を測定する。尚、製造直後の消臭性能は、サンプルBの数値を用いることとする。

サンプルB: 消臭剤H88の入った200ccのガラス容器を用意し、製造直後の消臭性能を測定した後密封保管し、その後密封、開封を繰り返しながら1ヶ月毎の消臭性能を測定する。
尚、開封から密封するまでの時間は1時間とする。

4. 各保管条件の試験目的

サンプルA: 消臭剤H88を密封した状態で常温保管した場合の消臭性能の変化を確認する。

サンプルB: 消臭剤H88を密封、開封を繰り返して常温保管した場合の消臭性能の変化を確認する。

5. 試験方法

- 5.1 試験条件
- ①試験装置: 1Lのガラス容器
 - ②測定器: ガステック気体採取器及びガス検知管
 - ③試験液及びアセトアルデヒド水溶液の計量: デジタルマイクロピペット

5.2 試験体作成

- 1) 試験液: 消臭剤H88を純水で30%に希釈したものを試験液とする。
※H88では消臭率100%となり、性能変化が判断しにくい場合稀釈品を試験液とする。
- 2) 試験体: 5cm×5cm(25cm²)の濾紙に試験液を50μl(20g/m²相当)滴下し、120℃で2分乾燥させたものを試験体とする。

5.3 試験対象物質: アセトアルデヒド

5.4 試験方法: 1Lガラス容器に試験体を入れ、更に所定濃度に調整したアセトアルデヒド水溶液を所定量滴下した後密閉し、1時間経過後のアセトアルデヒド残存ガス濃度を検知管にて測定する。

6. 試験結果

6.1 試験期間:2015年6月～2016年6月

6.2 評価基準:製造直後の消臭率に対し、±10%以内の性能を有する場合を合格とする。

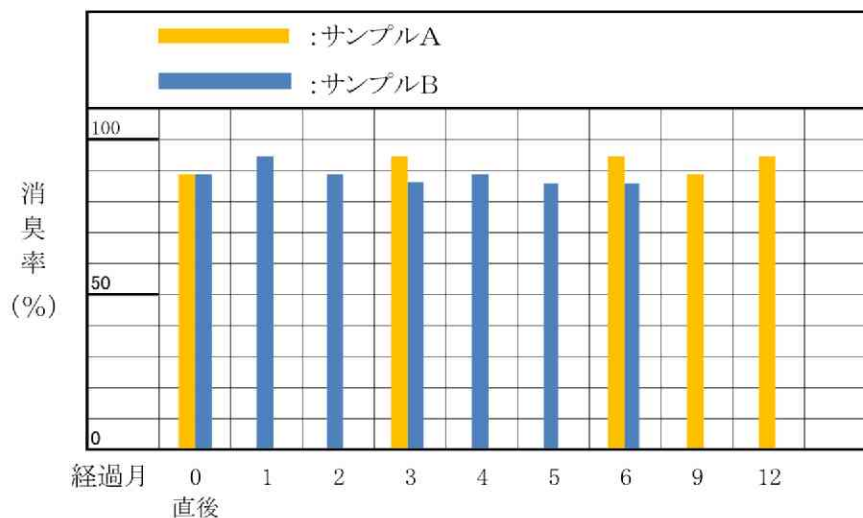
尚、この合否条件は、試験誤差やガス検知管のバラつきも考慮した条件である。

6.3 試験結果:「エアクレンスFC-H88」の経時によるアセトアルデヒドに対する消臭性能

経時(月)	ブランク	サンプルA	サンプルB
	1時間経過後の濃度 単位:ppm	1時間経過後のアセトアルデヒド消臭率 消臭率:%	
製造直後	140	89	89
1	135		93
2	140		89
3	145	93	86
4	140		89
5	145		86
6	135	93	86
9	140	89	
12	140	93	

※ガス検知管での数値の読みは5ppm単位とし、その間で四捨五入する。

*サンプルA及びサンプルBの経時による性能変化



7. 評価・考察・注意事項

1) 上記の評価結果により、本消臭剤:「エアクレンスFC-H88」は、製造後密封状態で保管した場合及び開封、密封を繰り返して保管した場合においても消臭性能の低下は見られておらず、安定して性能を保持しているものと判断する。

2) 従って、本消臭剤「エアクレンスFC-H88」は、

* 製造後、未開封の状態では1年間は性能を保持するものとし、保証期間を1年とする。

* 製造後、開封、密封を繰り返して使用した場合には、半年間は性能を保持するものと推測するが、保証するものではない。その理由は、消臭剤の性能が作業環境や開封時間に影響するからである。

3) 注意事項

* 保管する場合は、5℃～30℃の冷暗所での保管が好ましく、凍結には十分注意する。

* 使用後の残は、速やかに密封保管し、できるだけ早めに使い切るようにしてください。

以上